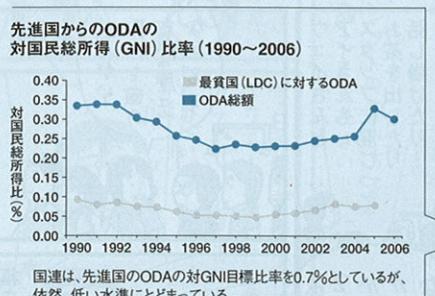
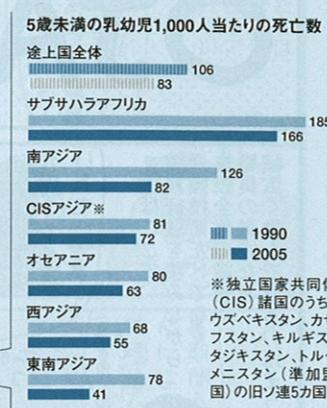


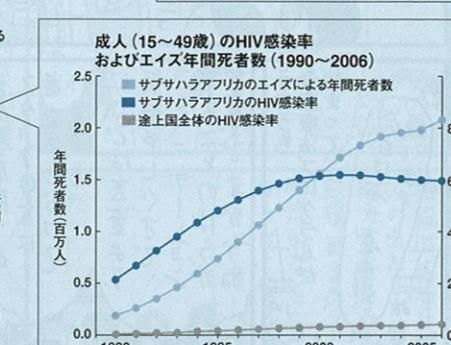
### MDGs 2015年に向けた8つの目標

MDGsでは、国際社会が達成すべき8つの目標とそれに対する18のターゲット、進捗状況を測定するための48の指標を掲げている。

1. 極度の貧困と飢餓の撲滅  
ターゲット1-2: 1日1ドル未満で生活する人々、飢餓に苦しむ人々を半減
2. 普遍的初等教育の達成  
ターゲット3: すべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了
3. ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上  
ターゲット4: すべての教育レベルにおける男女格差の解消
4. 乳幼児死亡率の削減  
ターゲット5: 5歳未満児の死亡率を三分の二減少させる



5. 妊娠婦の健康の改善  
ターゲット6: 妊娠婦の死亡率を4分の3減少させる
6. HIV/AIDS、マラリア、その他の疾病的蔓延防止  
ターゲット7-8: 2015年までに蔓延を阻止し、その後減少させる
7. 環境の持続可能性の確保  
ターゲット9-11: 持続可能な開発の促進、環境資源の喪失阻止と回復、安全な飲料水と衛生設備を利用できない人々を半減させるなど
8. 開発のためのグローバル・パートナーシップの推進  
ターゲット12-18: 健全な貿易・金融システムの構築、途上国の債務問題解決、適切で生産性のある雇用の創出、情報・通信分野の整備、など



参考: United Nations "The Millennium Development Goals Report 2007"、国連開発計画(UNDP)「ミレニアム開発目標」、MDGsロゴ: ほっとけない世界のまちさ (http://www.hottokenai.jp)

Q 7月末にイギリスのブラウン首相が、MDGsの進展を見直し、行動を加速化するための会議を2008年に開催するよう呼び掛け、日本も主要各国首脳とともに承認するなど、より積極的にかかわる役割を担っているのです。

変動、ディーセントワーカー※2、などMDGsの中間報告を踏まえた今後に向けての議論が行われる予定です。MDGsは、包括的に世界の現状を把握し、対策を立てるための説明の取り組みの結果をどう得力を持つツールとして有効です。これまでの取り組みの結果をどう解釈し、いかにフォローアップして今後につなげていくかが問われています。また、国連はMDGsを達成するだけでなく、「弱者と弱り残されている人々がこのようないます」という警鐘を国際社会に鳴らしていく重要な役割を担っているのです。

#### Column

##### MDGsと市民社会

MDGsをめぐるNGOや市民社会の動きが盛んだ。「MDGsの実現に向けて」をテーマに、2004年に設立された「NGO一労働組合国際協働フォーラム」は、地球規模の問題に取り組むNGOと、労働運動の一環として国際的な社会貢献活動に力を注ぐ各種労働組合が協力し結成された連合団体だ。現在、セミナー・シンポジウム、児童労働や保健など各分野でのグループ活動を行っている。また「NPO法人ほっとけない世界のまちさ」はUNDP後援のもと、MDGsのロゴ(上図参照)やTシャツ製作など、精力的にキャンペーンを展開している。MDGsを公約した各国の政府に対し、達成に向けた努力を促すうしなった市民社会の役割が、今、クローズアップされている。

A 貧困、難民、環境、資源管理を巡る争いなど国際社会が抱える問題は、わが国にも大きく影響しており、こうした問題に積極的に取り組むことは、国際社会での信頼にもつながります。来年5月に開かれる第4回アフリカ開発会議(TICADⅣ)では、日本ODA、国連、世界銀行、NGOなど多くの援助実施者が連携し、アフリカの貧困と開発にかかる主要な問題について、具体的な議論を行います。この会議を日本がリードすることは、アフリカの日本に対する信頼を再構築する一つの意味で、有意義なものになるでしょう。

資源や食料などを海外から輸入に大きく依存する私たちは生活を考えると、国際社会と協調しきれることが不可欠なのは言うまでもありません。日本が行ってきた人道主義的な貢献は国際社会で評価されており信用も高い。私たちがそのことに対する誇りと自覚を持つべきです。そして今後も日本がリーダーシップを取っていくためにには、国際社会の問題へ目を向け、世界各地で起きていくことが自分たちの生活と密接にかかわっています。その点でMDGsは、決して難解な国際公約ではなく、世界の現状を理解してどんな行動が必要かを考える、一人一人のためのツールなのです。

\*2 権利の保障、十分な収入、適切な社会的保護のある生産的な仕事。

Q MDGsが生まれた背景にはどんな問題がありますか？

A 当然、中心は貧困問題です。現在も世界の約3人に1人、23億人の人たちが1日2ドル以下の生活を強いられています。生きるために最低必要な食料や生活物資、資源へのアクセス、社会的な権利や参加の機会を持たない人たちが、つらい生活から抜け出ための最終手段として武力に訴えてしまいますが、各地で起こっている社会不安やテロ・紛争の原因となっていることが多いです。MDGsは、そうした問題に対処するための、国際社会が負るべき最低限のコミットメントの一つです。

Q 中間地点のMDGsの進捗状況を教えて下さい。

A 進捗状況には、大きなムラがあります。全体的には、教育の普及、女性を中心とした識字率の向上、乳幼児死亡率の低下などで進歩が見られます。全人口の3分の1以上で暮らす最貧困層の割合も、この7年間で5分の1以下に減少しました。しかし、アフリカのサハラ砂漠以南(サハラ)など貧困が最も深刻な地域では、多くの人々がこうした進歩から大きく取り残されています。その背景には、不均衡な富の分配という問題があります。最近はアフリカの中でも経済成長の著しい国が見られますが、同時に持てる者と持たざる者の格差が急速に広がっています。

Q こうした状況を踏まえ、改めてどのようなことが課題となっていますか？

A 最も助けを必要とする地域と人々に援助が届いていないという問題があります。例えば新たに借款による援助が組まれるとしても、返済の可能性においてリスクの高い国よりも、確実に返済が期待できる国へ援助が偏る傾向があります。新たに借款による援助が組まれるとしても、返済の可能性においてリスクの高い国によって得られる利益が、社会政策や教育・保健政策への投資としてどれだけ再分配されるかを一つの目安に、借りたお金の対象を決定すべきです。

また、富の分配が適切に行われていない国に対し、最貧困層に分配されるよう働き掛けるガバナンス支援が一層重視されています。それでも、富の分配が適切に行われる国に、新たなプロジェクトが押しつけられても、期待され押しつけられても、期待される効果は得られません。例えば、子どもに一度に多くのアドバイスを与えるとお腹を壊してしまうのと同じで、短期間で多額の援助により、その国自体が疲弊してしまう可能性があります。

Q こうした状況を踏まえ、改めてどのようなことが課題となっていますか？

A 最も助けを必要とする地域と人々に援助が届いていないという問題があります。新たに借款による援助が組まれるとしても、返済の可能性においてリスクの高い国によって得られる利益が、社会政策や教育・保健政策への投資としてどれだけ再分配されるかを一つの目安に、借りたお金の対象を決定すべきです。

Q MDGs達成へ向け、国連の果たすべき役割は？

A これまでのMDGsの経験をきちんと振り返り、目標達成に向けた明確な行動を導いていかなければなりません。現在、より効率的で効果の高い援助を実施するため、「1つの国連」※1の考え方を中心とする国連改革の動きがあります。また、9月18日から開催される国連総会でも、紛争、HIV/AIDS、気候などは途上国個々の状況に合わせて援助できるように複数の導入も考えていいく必要があります。必要なのは、適切な援助を無駄なく生かせる体制を構築し、一方ドナーは、途上国自身が財政の計画を立てやすく、また消化しやすい形でベース配分を十分に考え、援助を行っていくことが大切です。多数の小さなプロジェクトを必要としている国に、1つの大きなプロジェクトが押しつけられても、期待され押しつけられても、期待される効果は得られません。例えば、子どもに一度に多くのアドバイスを与えるとお腹を壊してしまうのと同じで、短期間で多額の援助により、その国自体が疲弊してしまう可能性があります。

Q MDGs達成へ向け、国連の果たすべき役割は？

A これまでのMDGsの経験をきちんと振り返り、目標達成に向けた明確な行動を導いていかなければなりません。現在、より効率的で効果の高い援助を実施するため、「1つの国連」※1の考え方を中心とする国連改革の動きがあります。また、9月18日から開催される国連総会でも、紛争、HIV/AIDS、気候などは途上国個々の状況に合わせて援助できるように複数の導入も考えていいく必要があります。必要なのは、適切な援助を無駄なく生かせる体制を構築し、一方ドナーは、途上国自身が財政の計画を立てやすく、また消化しやすい形でベース配分を十分に考え、援助を行っていくことが大切です。多数の小さなプロジェクトを必要としている国に、1つの大きなプロジェクトが押しつけられても、期待され押しつけられても、期待される効果は得られません。例えば、子どもに一度に多くのアドバイスを与えるとお腹を壊してしまうのと同じで、短期間で多額の援助により、その国自体が疲弊してしまう可能性があります。

## 国際ニュースのギモン

# ミレニアム開発目標は達成できそう？

2015年までに世界の貧困を半減させることを公約したミレニアム開発目標(MDGs)。達成期限と数値目標を定め、2000年の国連ミレニアムサミットで採択された。今年はちょうどその折り返し地点。7月に国連は中間報告を発表した。MDGsの進捗と今後の課題とは？

協力=村田俊一・国連開発計画(UNDP)駐日代表 Murata Shun-ichi  
1953年福岡県出身。ジョージ・ワシントン大学院国際政治経済博士課程修了。ハーバード大学ケネディ・スクール公共行政学修士修了。ウガンダ、スリランカ、中国など世界各国のUNDP事務所に勤務。その後モンゴル、フィリピンのUNDP事務所常駐副代表、ブータン国連常駐調整官兼UNDP常駐代表、関西学院大学総合政策学部教授などを経て、2006年11月より現職。